2024年5月29日

病院倫理委員会で承認された治療法

当院の病院倫理委員会で下記の医療が承認されました。対象者となられる方から同意をいただくことに代えて、病院ホームページに情報を公開することにより投薬を実施しております。この内容に関して同意できない場合やご質問がある場合は、下記の問い合わせ先までご連絡ください。なお、本件について同意できない場合でも診療において不利益を被ることはありません。

記

実施内容	緊急を有する特定の状況下での静脈投与薬剤の骨髄内投与
実施責任者	久留米大学病院 病院長 野村 政壽
対象者	緊急を有する特定の状況下（救命処置、心肺蘇生、ショック等）において、静脈路確保が困難な患者
承認日	2024年5月29日
対象期間	承認日から永続的
目的・意義	<p>生命の危機に関わるような特定の状況下において、静脈路確保が困難な患者においては必要な薬剤が投与できない場合があります。その際には、確実に心臓に薬剤を届けるために、脛骨（ひざ）、大腿骨（ふともも）、上腕骨（うで）に骨髄内注入用針により静脈内投与の代わりに輸液やアドレナリン等の蘇生に必要な薬剤を骨髄内へ投与することがあります。</p> <p>使用する薬剤の多くは経静脈投与を基本としており、骨髄投与については添付文書に記載がありません。しかし、医療現場において静脈内投与できる薬剤は全て骨髄内投与できることが知られておりますので、生命の危機において有用性が不利益を上回ると判断される場面において、緊急に必要な薬剤のみ一時的に使用するものです。</p>
想定される不利益と対策	骨髄路確保に伴い穿刺針による出血や骨折、挿入部位周囲の腫脹や髄外漏出、骨髄針の事故抜去、穿刺部位の創部感染や骨髄炎、またコンパートメント症候群などがあります。また、髄外漏出した薬剤によっては、その薬剤により局所の損傷が想定されます。適切な静脈路が確保でき次第、もしくは緊急を要する事態を脱した時点で速やかに骨髄針の使用は中止されます。
問い合わせ先	久留米大学病院 各診療科担当医師 電話 0942-35-3311（代表）

以上